

1

- 次の取引の仕訳を示しなさい。
- a. 個別原価計算を採用している愛知製作所は、特許権使用料 ¥120,000 を A 製品（製造指図書 # / ）に賦課した。
- b. 組別総合原価計算を採用している長野製作所における / 月分の製品の販売に関する資料は、次のとおりであった。よって、売上高および売上原価を計上した。
- | | A 組 | B 組 |
|----------|------------|------------|
| 売上高（掛け） | ¥2,480,000 | ¥2,340,000 |
| 売上製品製造原価 | ¥1,736,000 | ¥1,521,000 |
- c. 当月の素材の払出数量は、製造指図書 # / に 430 個 機械修理用として 30 個であったので、素材の消費高を計上した。ただし、素材は @¥600 の予定価格を用いており、消費材料勘定を設けている。
- d. 工程別総合原価計算を採用している三重工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第 2 工程（最終工程）に投入した第 / 工程の完成品原価は ¥3,400,000 である。ただし、当社では第 / 工程の完成品原価をすべて第 / 工程半製品勘定に振り替えている。
- 第 / 工程 ¥2,580,000 第 2 工程 ¥4,250,000
- e. 工場会計が独立している岐阜工業株式会社の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費 ¥810,000 を計上した。ただし、このうち ¥270,000 は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は本社のみに設けてある。（本社の仕訳）
- f. 山梨製作所は、発生がわずかであったため評価しないでおいた作業くずを ¥5,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

2

- 静岡製作所は、個別原価計算を採用し、X 製品（製造指図書 # / ）と Y 製品（製造指図書 # 2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。
- (1) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (2) 補助部門費を各製造部門に配賦する仕訳を示しなさい。
- (3) 第 / 製造部門費および第 2 製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。
- (4) X 製品（製造指図書 # / ）の原価計算表を完成しなさい。
- ただし、i 月初仕掛品はなかった。
- ii 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

資 料

a. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間

	第 / 製造部門	第 2 製造部門
年間製造間接費予定額	¥10,540,000	¥8,450,000
年間予定直接作業時間	17,000 時間	13,000 時間

b. 製造部門の当月直接作業時間

	第 / 製造部門	第 2 製造部門
直接作業時間	製造指図書 # / 900 時間	製造指図書 # 2 720 時間
	製造指図書 # 2 550 時間	440 時間

c. 補助部門費の配賦基準

	配 賦 基 準	第 / 製造部門	第 2 製造部門	動力 部 門	修 繕 部 門
動力部門費	kW 数 × 運転時間数	25kW × 600 時間	20kW × 500 時間	—	10kW × 100 時間
修繕部門費	修 繕 回 数	10 回	8 回	2 回	—

d. 完成品数量 X 製品（製造指図書 # / ） 90 個

3

- 次の各問いに答えなさい。
- (1) 次の文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
- a. 原価要素には、固定費と変動費が合成されたものもあり、電力料のように操業度が零 (0) の場合でも一定額が発生し、さらに操業度に比例して発生高が増加する原価要素を という。
- b. 等級別総合原価計算では、製品の重量や大きさ・品質など、原価の発生と関係のある製品の性質にもとづいて を決定する。これは各等級製品の単位原価の比率になる。
1. 準 固 定 費 2. 積 数 3. 原 価 標 準 4. 準 変 動 費 5. 等 価 係 数
- (2) 福井工業株式会社の下記の資料により、製造原価報告書および損益計算書に記載する次の金額を求めなさい。なお、材料消費価格差異および賃率差異は売上原価に振り替える。
- a. 当期材料費 b. 当期経費 c. 期末仕掛品棚卸高 d. 売上原価

資 料

① 素 材	当期予定消費高	¥1,370,000		
	期首棚卸高	¥153,000	当期仕入高	¥1,364,000
			期末棚卸高	¥145,000
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥36,000	当期仕入高	¥276,000
			期末棚卸高	¥58,000
③ 賃 金	当期予定消費高	¥2,530,000		
	予定賃率を用いており、賃率差異	¥13,000（貸方残高）がある。		
④ 給 料	当期消費高	¥240,000		
⑤ 外注加工賃	前期未払高	¥26,000	当期支払高	¥126,000
			当期未払高	¥32,000
⑥ 電力料	当期支払高	¥346,000	当期測定高	¥353,000
⑦ 減価償却費	当期消費高	¥370,000		
⑧ 仕 掛 品	期首棚卸高	¥930,000	期末棚卸高	¥
⑨ 当期製品製造原価		¥5,251,000		
⑩ 製 品	期首棚卸高	¥1,530,000	期末棚卸高	¥1,280,000

(3) 新潟製作所ではB製品を/個あたり ¥2,500 で販売している。この製品を1,600個製造・販売したときの直接原価計算による損益計算書は下記のとおりである。よって、次の金額または数量を求めなさい。

- a. 販売数量が/,760個のときの営業利益 b. 損益分岐点の売上高
c. 目標営業利益 ¥396,000 を達成するための販売数量

新潟製作所		損 益 計 算 書
I	売 上 高	4,000,000
II	変動売上原価	1,920,000
	変動製造マージン	2,080,000
III	変動販売費	880,000
	貢 献 利 益	1,200,000
IV	固 定 費	
1.	固定製造間接費	600,000
2.	固定販売費および一般管理費	240,000
	営 業 利 益	360,000

(4) 標準原価計算を採用している富山製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。なお、解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

- a. 月末仕掛品の標準直接材料費 b. 材料消費価格差異 c. 作業時間差異

資 料

- ① 標準原価カード（一部）

M製品		標準原価カード（製品／個あたり）	
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	5kg	¥300	¥1,500
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥800	¥2,400

- | | | |
|------------------|------------|-----------------|
| ② 実 際 生 産 数 量 | 月初仕掛品 | 250個 (仕上り程度40%) |
| | 完 成 品 | 1,350個 |
| | 月末仕掛品 | 400個 (仕上り程度50%) |
| ③ 実 際 直 接 材 料 費 | ¥2,356,000 | |
| (実 際 消 費 数 量 | 7,600kg | 実 際 単 価 ¥310) |
| ④ 実 際 直 接 労 務 費 | ¥3,432,000 | |
| (実 際 直 接 作 業 時 間 | 4.400時間 | 実 際 賃 率 ¥780) |

4

石川工業株式会社は、単純総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 賃金勘定と製造勘定に記入して締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 単純総合原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	450kg	@¥4,560	¥2,052,000	
工場消耗品	2,350個	" " 60	¥ 141,000	
仕 掛 品	¥969,000 (うち、素材費		¥672,000	加工費 ¥297,000)
賃 金 (未払高)			¥ 684,000	

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき $\frac{1}{160}$ の予定賃率を用いている。
- iv 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
- v 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
- vi 勘定記入は、日付・相手科目・金額を示すこと。

取 引

- ／月 4日 素材400kgを消費した。

- 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	1,000kg	@¥4,640	¥4,640,000
工場消耗品	16,000個	" " 60	¥ 960,000

- 10日 事業主負担分の健康保険料 ¥148,000 と従業員から預かっている健康保険料 ¥148,000 をともに現金で支払った。

- 13日 素材950kgを消費した。

- 2/目 製造経費を次のとおり小切手を振り出して支払った。

電力料	¥216,000	保險料	¥876,000	雜費	¥21,000
-----	----------	-----	----------	----	---------

- 25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ￥3,170,000

うち、控除額 所得税 ¥298,000 健康保険料 ¥148,000

- 3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は2,000個であった。よって、消費高を計上した。

- ② 当月の作業時間は2,750時間であった。よって、賃金の予定消費高を計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

- ③ 健康保険料の事業主負担分 2/148.000 を計上した。

- ④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。

電力料	¥205,000	保 險 料	¥73,000
減価償却費	575,000	雜 費	22,000

- ⑤ 当月の製造数量について、次の資料を得た。

完成品数量 5,600個
月末仕掛品数量 400個 (仕上り程度45%)

- ⑥ 当月の賃金実際消費高 ¥3,245,000 を計上した。

- ⑦ 賃金の予定平均賃率による消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

部門費振替表

相互配賦法

平成〇年/月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,650,000	625,000	541,000	234,000	250,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修繕回数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(2)

借方	貸方

(3)

借方	貸方

(4)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
1,341,000	1,458,000	第1				直接材料費	
		第2				直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	90個
						製品単価	¥

3

(1)

ア		イ	
---	--	---	--

(2)

a	当期材料費 ¥	b	当期経費 ¥
c	期末仕掛品棚卸高 ¥	d	売上原価 ¥

(3)	a	販売数量が1,760個のときの営業利益 ¥	b	損益分岐点の高 ¥	c	目標営業利益 ¥396,000を達成するための販売数量 個
(4)	a	月末仕掛品の標準直接材料費 ¥	b	材料消費価格差異 ¥ ()	c	作業時間差異 ¥ ()

4		(1)		借	方	貸	方
			1/月 4日				
			8日				
			10日				
			13日				
			27日				
			25日				
			3/日	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
				⑥			
				⑦			

(2)	賃	金	製	造
		1/1 前月繰越 684,000	1/1 前月繰越 969,000	

(3) 単純総合原価計算表
平成〇年/月分

摘	要	素	材	費	加	工	費	合	計
材	料	費							
労	務	費							
経		費							
	計								
月	初	仕	掛	品	原	価			
	計								
月	末	仕	掛	品	原	価			
完	成	品	原	価					
完	成	品	数	量					
製	品	単	価	¥		¥		¥	

試験場校	受験番号

原計の2得点

総得点

第77回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解 答]

1級原計の1

1

	借	方	貸	方
a	製 造	120,000	特 許 権 使 用 料	120,000
b	売 掛 金	4,820,000	売 上	4,820,000
	売 上 原 価	3,257,000	A 組 製 品	1,736,000
			B 組 製 品	1,521,000
c	製 造	258,000	消 費 材 料	276,000
	製 造 間 接 費	18,000		
d	第 1 工 程 半 製 品	2,580,000	第 1 工 程 製 造	2,580,000
	第 2 工 程 製 造	3,400,000	第 1 工 程 半 製 品	3,400,000
	製 品	4,250,000	第 2 工 程 製 造	4,250,000
e	減 価 償 却 費	540,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	810,000
	工 場	270,000		
f	現 金	5,000	雑 益	5,000

2

(1)

部 門 費 振 替 表

平成〇年/月分

相互配賦法

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部 門 費 合 計		1,650,000	625,000	541,000	234,000	250,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	234,000	135,000	90,000	—	9,000
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	250,000	125,000	100,000	25,000	—
第1次配賦額		484,000	260,000	190,000	25,000	9,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	25,000	15,000	10,000		
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	9,000	5,000	4,000		
第2次配賦額		34,000	20,000	14,000		
製造部門費合計		1,650,000	905,000	745,000		

(2)

借	方	貸	方
第 1 製 造 部 門 費	280,000	動 力 部 門 費	234,000
第 2 製 造 部 門 費	204,000	修 繕 部 門 費	250,000

(3)

借	方	貸	方
製 造 部 門 費 配 賦 差 異	6,000	第 1 製 造 部 門 費	6,000
第 2 製 造 部 門 費	9,000	製 造 部 門 費 配 賦 差 異	9,000

(4)

製造指図書# /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費			集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	金 額
1,341,000	1,458,000	第 1	900	620	558,000	1,341,000
		第 2	720	650	468,000	1,458,000
					1,026,000	1,026,000
						製 造 原 価
						完 成 品 数 量
						90個
						製 品 単 価
						¥ 42,500

3

(1)

ア	4	イ	5
---	---	---	---

(2)

a	当 期 材 料 費 ¥	1,624,000	b	当 期 経 費 ¥	855,000
c	期 末 仕 掛 品 棚 卸 高 ¥	928,000	d	売 上 原 価 ¥	5,490,000

第77回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解 答]

1級原計の2

- (3) a 販売数量が1,760個のときの営業利益 ¥ 480,000 b 損益分岐点の高 ¥ 2,800,000 c 目標営業利益¥396,000を達成するための販売数量 1,648 個
- (4) a 月末仕掛品の標準直接材料費 ¥ 600,000 b 材料消費価格差異 ¥ 76,000 (不利) c 作業時間差異 ¥ 40,000 (不利)

4

(1)

		借	方	貸	方	
1月 4日		製	造	1,824,000	素 材	1,824,000
8日		素 材	4,640,000	買 掛 金	5,600,000	
		工 場 消 耗 品	960,000			
10日		健 康 保 険 料	148,000	現 金	296,000	
		健 康 保 険 料 預 り 金	148,000			
13日		製	造	4,404,000	素 材	4,404,000
27日		電 力 料	216,000	当 座 預 金	1,113,000	
		保 險 料	876,000			
		雑 費	21,000			
25日		賃 金	3,170,000	所 得 税 預 り 金	298,000	
				健 康 保 険 料 預 り 金	148,000	
				当 座 預 金	2,724,000	
3月 3日	①	製	造	981,000	工 場 消 耗 品	981,000
	②	製	造	3,190,000	消 費 賃 金	3,190,000
	③	製	造	148,000	健 康 保 険 料	148,000
	④	製	造	875,000	電 力 料	205,000
					保 險 料	73,000
					減 価 償 却 費	575,000
	⑤	製	品	11,760,000	製 造	11,760,000
⑥	消 費 賃 金	3,245,000	賃 金	3,245,000		
⑦	賃 率 差 異	55,000	消 費 賃 金	55,000		

- (2) 賃 金 製 造
- | | | | |
|--------------------|-------------------|------------------|---------------------|
| 1/25 諸 口 3,170,000 | 1/1 前月繰越 684,000 | 1/1 前月繰越 969,000 | 1/31 製 品 11,760,000 |
| 31 次月繰越 759,000 | 31 消費賃金 3,245,000 | 4 素 材 1,824,000 | 〃 次月繰越 631,000 |
| 3,929,000 | 3,929,000 | 13 素 材 4,404,000 | |
| | | 31 工場消耗品 981,000 | |
| | | 〃 消費賃金 3,190,000 | |
| | | 〃 健康保険料 148,000 | |
| | | 〃 諸 口 875,000 | |
| | | 12,391,000 | 12,391,000 |

- (3) 単純総合原価計算表
平成〇年/月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費	6,228,000	981,000	7,209,000
労 務 費	—	3,338,000	3,338,000
経 費	—	875,000	875,000
計	6,228,000	5,194,000	11,422,000
月 初 仕 掛 品 原 価	672,000	297,000	969,000
計	6,900,000	5,491,000	12,391,000
月 末 仕 掛 品 原 価	460,000	171,000	631,000
完 成 品 原 価	6,440,000	5,320,000	11,760,000
完 成 品 数 量	5,600個	5,600個	5,600個
製 品 単 価	¥ 1,150	¥ 950	¥ 2,100